



H27年度検討の概要

- 近年、地球温暖化などの気候変動により豪雨等の発生頻度が高くなっている傾向にあります。これにより、計画規模を上回る洪水(超過洪水)が発生する恐れが高まっています。
- 本検討は、「香川地域継続検討協議会」(会長：香川大学危機管理研究センター長)と連携し、土器川で大規模河川氾濫が発生した際の被害想定に対して、地域が連携した「水災害に適応した強靱な社会作り」に向けた検討を、平成25年度から継続して検討を進めています。
- 平成27年度の取り組みは、**地域住民の目線を取り入れた「アクションプラン」や「タイムライン」**のとりまとめに資するものです。
- そのため、土器川沿川の**モデル地区を対象に**、地域住民の考える防災行動等に関する意見交換・意見集約の場として**ワークショップを開催**しました。

● 香川地域継続検討協議会（既存会議）

- ・メンバー 国地方支分部局、香川県、高松市、坂出市、経済団体、香川大学、インフラ各社等
- ・設立 平成24年5月31日



連携 「アクションプラン【行動計画書(案)】」の検討(河川・地域行政と地域住民が連携したタイムラインのとりまとめ)

● 水害に強いまちづくり検討会

- ・メンバー 香川大学危機管理研究センター、香川県(危機管理課、中讃土木事務所)、丸亀市、まんのう町、坂出市、善通寺市、宇多津町、琴平町、香川県防災士会、高松地方気象台、四国地方整備局香川河川国道事務所



モデル地区における地域住民を対象とした情報共有・意見集約

★ 水害に強いまちづくりワークショップ(WS)

- ・メンバー 土器川下流部右岸(丸亀市土器町)の地域住民、香川大学危機管理研究センター、香川県(危機管理課、中讃土木事務所)、丸亀市、香川県防災士会、高松地方気象台、四国地方整備局香川河川国道事務所

～ 水害に強いまちづくりワークショップの流れ ～

	情報の共有	意見出しのテーマ
第1回WS	モデル地区における複合災害(堤防決壊、土砂災害、内水を想定) 既存の情報伝達手段	住民目線による 時間軸に応じた防災行動 を考える (いつ、誰が、何をするか)
第2回WS	災害警戒期の タイムライン(たたき台) の提示 (第1回WS意見の反映)	防災行動の課題 を考える (タイムラインに従って行動すれば、安全に避難ができるか)
第3回WS	災害警戒期の タイムライン(素案) の提示 モデル地区における 住民目線での課題	水害に強いまちづくり を考える (私たちが出来ることから、始めよう)

12/19実施

ワークショップの概要

◆H27年度のワークショップの位置付け

- 大規模水害発生後の“**地域の生き残り計画**”について、“**住民目線**”で議論する先進的な取り組みです。
- “**上下流の地域が一体**”の広域的な取り組みを進める中で、土器川沿川の**モデル地区を対象**とした検討です(ワークショップは**全3回開催**しました)。

◆ワークショップのねらい

- 土器川流域において、“**水害に強いまちづくり**”を目指した流域・地域で一体となった大規模水害対策を推進していきます。

H27ワークショップ等に関する詳しい情報はこちら・・・

平成25年度からの取り組みや本検討の詳しい内容、ワークショップの開催告知・報告などの情報は、以下のアドレスから閲覧することができます。



香川河川国道事務所ホームページから、左のバナーをクリックしても閲覧できます。

<http://www.skr.mlit.go.jp/kagawa/river/daikibosuigai/index.html>

「土器川における水害に強いまちづくり検討」、「ワークショップ」に関するお問い合わせは・・・



国土交通省四国地方整備局
香川河川国道事務所 <http://www.skr.mlit.go.jp/kagawa/>

〒760-8546 高松市福岡町4-26-32

TEL : 087-821-1623 (計画課直通) FAX : 087-821-1713



「第3回水害に強いまちづくりワークショップ」を開催しました

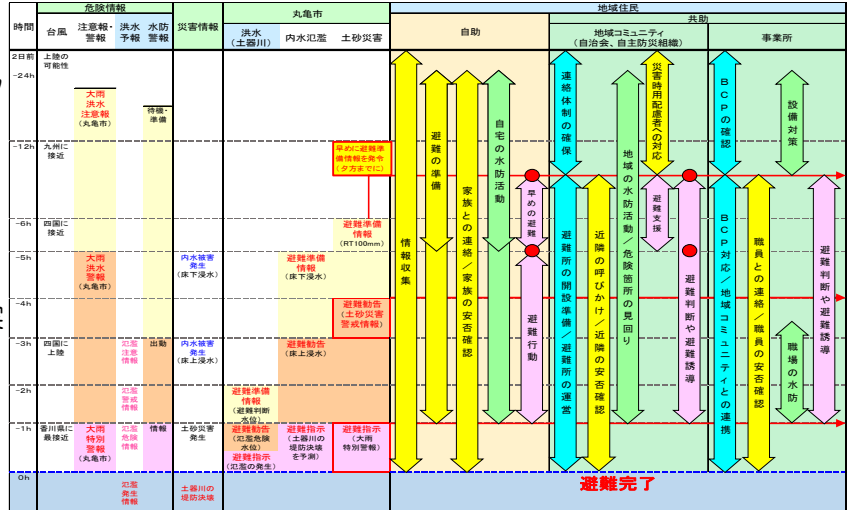
- 平成27年12月19日（土）に土器川下流部右岸モデル地区（丸亀市土器町）の地域住民等約50名が集まり、「第3回水害に強いまちづくりワークショップ」を丸亀市民会館（中ホール）にて開催しました。
- 第3回ワークショップ開催の様子や検討内容等について、ご報告します。



第3回ワークショップの内容

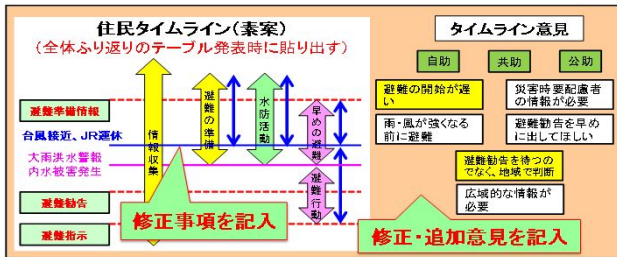
◆第3回ワークショップ検討のテーマ

- 第2回ワークショップで作成した『住民タイムライン（素案）』をもとに、「**時間軸**を考えた準備・行動」と「**早めの安全な避難行動**」を行うための「**避難の目安**」が適切かどうか再度考えました。
- タイムラインに従った共助の防災行動を実行するためには課題も多いため、5つのテーブル毎に「**共助の重点対策**」を展開するための**具体的な取り組み内容**を検討しました。



【検討-1：早めの安全な避難についてもう一度考えてみました】

- ◆ 自分の住まいや職場を基準に、**時間軸に沿った** 自助・共助の**防災行動**をイメージして、タイムラインの「**避難の目安**」が適切かを考え、「**早めの安全な避難**」を行うための、問題点や課題等の意見を出し合いました。



検討方法のイメージ



検討の様子



【検討-2：共助による具体的な取り組みを検討しました】

- ◆ 地域コミュニティにおける**防災行動の実効性を確保**するため、第2回ワークショップの意見で得られた**重点対策5項目**について、共助として具体的に取り組む内容（アイデア）を意見出ししました。

重点対策5項目 (共助による取り組みが必要な5項目)	テーブル
・災害時要配慮者の避難支援・誘導を行うには	1
・地域コミュニティを活性化するためには	2
・避難所の開設準備や運営で支援できることは	3
・地域コミュニティ（自治会・自主防災組織）内の連絡体制を強化するためには	4
・事業所としての地域支援の具体策は	5



テーブル発表の様子



「早めの避難・防災行動を行うためにはどんな対策（アイデア）があるか、意見カードに記入し整理しました。」

◆第3回ワークショップを実施して…

- ◆ 早めの安全な避難・防災行動を具体的に考える中で、数多くの意見が出されました。
 <例えば>
 【タイムライン】行政から出る早めの情報に耳を傾ける/情報の伝達（共有）が大切 etc
 【重点対策】日頃から近隣の人とのつながりを密にしておく必要がある/他人に避難を呼びかけるためにまずは自分が行動する etc

WSの住民意見を集約して「“水害に強いまちづくり”のためのアクションプラン【行動計画書(案)】」へ反映し、「水害に強いまちづくり検討会」へ報告します。